

『菅家文章』 269 寄白菊 四十韻 に「早春新賦葉／初夏細牙根」の句が見える。
『紀長谷雄集』にも詩題として「70 早春内宴侍清涼殿。周賦草樹暗迎春 應製」が見える。
3 浅深：川の浅い所・深い所。

『白氏文集』 2287 翫止水 に「浅深三四尺／洞澈無表裏」の句が見える。

何水氷猶結：「川の水は（立春を迎えて）いつまでも水で結び閉ざしている所があるうか。（あるはずがな）」の意。

『礼記』 卷五「月令・第六」にある「孟春之月。東風解冻、蟄蟲始振。魚上冰、獺祭魚、鴻雁來（孟春の月、東風凍を解き、蟄蟲始めて振き、魚は氷に上り、獺は魚を祭り、鴻雁來たる）」の一文による。

（『藝文類聚』 卷第三「歲時上・春」）

『菅家文章』 卷四「278 立春 在十二月廿六日」の三句目に

「証告浪従氷下動（証告す 浪 氷下より動くことを）」の類似した表現が見える。（後の「三章」で再掲し、詳述。）

4 高卑：山の高いことと山の低いこと。「高い山も、低い山も」の意。

『白氏文集』 3137 菩提寺上方晚眺 に「樓閣高樹淺深／山光水色暝沈沈」の類似した句が見える。
又同じく「0037 悲哉行」に「山苗與澗松／地勢隨高卑」の句が見える。

この三・四句は、『新撰朗詠集』「卷上・春」に採録されている。